

活動テーマ

地元農産品・観光資源による地域内活性化と都市部との人的交流推進

鳩山町村須江・大橋・泉井地区 日本大学

## 1 活動目的

須江・大橋・泉井地域で生産される農産品には地域特性に関する情報がなく、その特徴が他地域に知られていない状況となっている。そこで、地元の観光資源などと合わせて、須江地区の魅力の発見を通じて、地区の魅力おこしに取り組む。具体的には、地元産品やそれらを組み合わせた名産品を開発し、地元の観光資源の発掘や改良を提案し、実際に環境改善に協力することを数年間に渡る活動の長期目標と考えている。

## 2 活動地域の現状

須江地域で生産されるコメ、麦、大豆、あんずは農協や直売所へ直接卸しているため、地域の特徴が他地域に知られていない状況となっている。また、歴史的資産もあり、有機的連携の可能性もある。大橋地区には地域おこし協力隊として活動されていた方が定住しておられ、地域活性化の要所と考えることができる。泉井地区は小学校などがあり、地域全体の交流に広げられる可能性がある。

## 3 活動内容

令和元年 6 月 20 日：大橋地区ネギ畑の草むしりと試食会参加。令和元年 6 月 22 日：あんず摘み取り手伝い参加。令和元年 7 月 11 日：須江地区一斉草刈りと講演会参加。令和元年 10 月 26 日：大橋地区農園でハーブの種まき参加。令和元年 10 月 27 日：あんずの藁巻き参加。令和元年 11 月 10 日：須江地区秋の草刈りと収穫祭参加。令和元年 12 月 22 日大橋地区試食会と講演会参加。令和 2 年 2 月 7 日：あんずの寒肥まき参加。

## 4 成果

本年度は活動開始年度であるため、まずは鳩山町および須江地区および大橋地区の方々と交流を重ね、信頼感を醸成した。そのうえで、地元の特産品や観光資源などを把握し、課題なども発見しながら、現段階で可能な活動に着手し、地元の物産展などでの特産品や観光情報の発信を目指した。須江地区では資源保全隊の草刈りや地元の祭に参加した。また、地域の特産品である鳩山あんず栽培加工組合でのあんずの摘み取りや藁まき、寒肥巻きなどを手伝った。大橋地区では移住者の方や鳩山ニュータウンの起業家の方々と交流を深め、野菜の栽培やそれを踏まえた販路の拡大を検討した。

## 5 課題

都心部へのアクセスが良いことはチャンスでもあるが、制約になることがわかった。須江・大橋地区については山里のある自然豊かな地域ではあるが、少ない農家で農耕地としては大規模に行うほど面積がなく、大量生産に向く場所ではない。結果として、農協を中心とした一般的な量産型農産品と同じ販路で流通し、高付加価値化に転じることができていないことがわかった。

須恵器や国分寺瓦などの出土、笛吹峠や瑠璃光院、陶窯跡、草葺きの民家など須江地区の歴史を伺わせる歴史的資産はあるが、遺構がないなど課題がある。現状では歴史的資産を農産品と結びつける形で活用することを検討したい。

今年度は須江・大橋地区の活動に注力してきたが、地区内では住民間の相互理解が進んでいるが、地区をまたぐとお互いの情報が少ないことがわかった。ふるさと支援隊は地域横断型で活動できるため、本年度も機会があれば、相互に紹介するようにしているが、今後は紹介に留まらず、一緒に活動して頂く機会を設けたいと考えている。

## 6 次年度以降の計画

来年度は地域の方々が希望されている農産品を都心部に流通させる方法の調査やあんずの活用の可能性、更に黒豆などの農産品の活用可能性の調査といった活動を行いたいと考えている。

地域の方々は農産品の加工よりも、農産品自体を都心部に流通させることで、農業の高付加価値化と地域の広報に使いたいとの希望を持っておられる。川出ゼミとしては都心にキャンパスがある状況を活かし、都市部が求めている農産品の特徴や販路の形態を調査したいと考えている。それらの情報を地域の方々にフィードバックしつつ、さらには可能であれば、利用者と農家とのマッチングに繋げられればと考えている。

地域の人々との交流に安住せず、地域間の交流促進を促すことで、鳩山町全体の有機的な活性化へとつなげてゆきたいと考えている。特に、鳩山ニュータウンは伝統的な亀井地区の活動を活性化する際に有効な人材が多くいらっしゃることから、現代的なアレンジの可能性を追求したい。更に、あんず栽培加工組合の周知を促しながら、保守的な雰囲気改善したいと考えている。地域内の人的交流によって、さらなる相乗効果を図りたい。また、本年度は取り組んでこなかったが、泉井地区へも活動の幅を広げ、小学校との交流を始め、有機的かつ広範な活動を掘り下げてゆきたいと考えている。

以上